



日本学研究

——二零零九年上海外国语大学日本学
国际论坛纪念论文集

主編／許慈惠



華東理工大學出版社



日本学研究

——二零零九年上海外国语大学日本学

国际论坛纪念论文集

主編／許慈惠

華東理工大學出版社

图书在版编目(CIP)数据

日本学研究:二零零九年上海外国语大学日本学国际论坛纪念论文集/许慈惠主编.
—上海:华东理工大学出版社,2009.11

ISBN 978-7-5628-2520-3

I.①日... II.①许... III.①日本-研究-国际学术会议-文集-汉、日 IV.K313.07-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2009)第 206230 号

日本学研究

——二零零九年上海外国语大学日本学国际论坛纪念论文集

主 编 / 许慈惠

责任编辑 / 常海霞

责任校对 / 金慧娟 张 波

封面设计 / 戚亮轩

出版发行 / 华东理工大学出版社

地 址:上海市梅陇路 130 号,200237

电 话:(021)64250306(营销部)

(021)64252717(编辑室)

传 真:(021)64252707

网 址:press.ecust.edu.cn

印 刷 / 常熟华顺印刷有限公司

开 本 / 787mm×1092mm 1/16

印 张 / 30.5

字 数 / 744 千字

版 次 / 2009 年 11 月第 1 版

印 次 / 2009 年 11 月第 1 次

印 数 / 1—800 册

书 号 / ISBN 978-7-5628-2520-3/H·885

定 价 / 128.00 元

(本书如有印装质量问题,请到出版社营销部调换。)

前 言

2009年6月13日,“2009年上海外国语大学日本学国际研讨会”在上海外国语大学隆重召开。本次研讨会的主题为“アジア安定と発展に向けての日本学研究”,由国家教育部高等学校外语专业教学指导委员会日语分委员会和上海外国语大学日本文化经济学院共同举办。共有270余位来自国内外70余所高校、研究机构的专家学者参加了本次大会。在大会组织者和与会者的共同努力下,会议获得了圆满成功。

在开幕式上,上海外国语大学常务副校长谭晶华教授致开幕词。日本驻上海总领事馆领事川田勉先生发表了热情洋溢的贺词。中国日语教学研究会会长修刚教授和京都教育大学森山卓郎教授为本次研讨会作了题为“中国の日本語教育の文法体系の再構築”和“日本語のニュアンス”的精彩报告。随后,活跃在日本学研究各领域的118位研究者分别就语言学、教育学、文学、经济和文化等各个方面的问题发表了各自的科研成果,并进行了交流研讨,气氛非常热烈。

本次研讨会的召开促进了学界交流,活跃了学术气氛,为推动中日两国日本学研究的发展做出了一定的贡献,受到了与会者的一致好评。

本论文集正是本次研讨会成果的集中展示。经过认真严格的遴选,我们从240余篇投稿中精选出了80余篇论文,几易其稿,终于形成了如今的论文集。可以说,本论文集汇集了国内外日本学研究界的最新成果和动态,具有一定的学术和参考价值。

本次研讨会的顺利召开得益于上海外国语大学各级领导以及社会各界的关怀和支持。借此机会,谨向为本次学会的召开提供大力协助的日本国际交流基金、日本驻上海总领事馆、中国日语教学研究会、卡西欧(上海)贸易有限公司、华东理工大学出版社、高等教育出版社以及上海外国语大学各有关单位、部门表示衷心的感谢。

编 者

2009年7月30日

目 次

日本語のニュアンス	京都教育大学 森山卓郎(1)
中国の日本語教育の文法体系の再構築	天津外国语学院 修 刚(6)
新时代的中国日本文学研究教育	上海外国语大学 谭晶华(14)

日本語学

日中両言語における感情動詞の比較研究	南开大学 王健宜 于艳莉(22)
勧誘文のテンスとアスペクト	上海外国语大学 王 宏(27)
「していい」、「してもいい」の機能の拡張過程について	上海外国语大学 王晓华(30)
关于动词可能表达的一考察	华东政法大学 王 丹(36)
「持ち主の受身」再考	广东外语外贸大学 冈沢成俊(40)
レトリック、イメージと表現	上海外国语大学 关 薇(43)
日本語における二字漢語の形成特徴	上海对外贸易学院 邱根成(48)
「日本語の乱れ」に関する一考察	上海外国语大学附属外国语学校 许 群(53)
近 30 年日语词汇研究回顾(2)	上海外国语大学 许慈惠 姚 璞(58)
原因格を示すヲについて	洛阳外国语学院 许宗华(63)
「させる、てもらう、ように」と“让,使”	上海商学院外国语学院 金燕玲(68)

「漢語」と「汉语」の修辭的殘像効果の差について

..... 上海外国语大学 櫻田芳樹(74)

日語中以「一着」形式构成的「漢語」

..... 北京外国语大学 朱京伟(79)

ガ／ケレド(モ)非逆接用法の性格と表現価値

..... 苏州大学 徐 卫(84)

日本語由来新語に関する一考察

..... 北京日本学研究中心 譙 燕(89)

改革開放以降中国語新語の日本における翻訳と伝播

..... 上海大学 常志斌(94)

中文日訳における人称代名詞の省略と顕現

..... 上海对外贸易学院 徐 曙(99)

複合動詞「一尽くす」の意味について

..... 名古屋大学 杉村泰(104)

依頼の取り消し表現のストラテジーについて

..... 扬州大学外国语学院 孙 杨(109)

依頼表現と命令表現について

..... 爱媛女子短期大学 高泽信子(114)

現代日本語における若い女性の多様な言動行動

..... 上海外国语大学 赵 鸿(119)

複合動詞におけるヴォイスの形式

..... 上海外国语大学贤达学院 陈文栋(123)

体言、用言と「テニヲハ」の概念について

..... 东南大学 陶友公(128)

中国語の“横”と日本語の「横」の意味用法の共通点と相違点をめぐって

..... 上海外国语大学 任川海(133)

方向を表す複合助詞「に対して」と「にむかって」について

..... 北京大学 马小兵(139)

形式体言の構文機能

..... 上海外国语大学 皮细庚(144)

指示詞「コ・ソ・ア」について

..... 上海外国语大学网络教育学院 付明非(150)

中国語の動詞述語の語順とその翻訳について

..... 复旦大学 庞志春(155)

中国日本語学習者コーパス(CJLC)の構築

..... 上海外国语大学 毛文伟(159)

如何处理言内意义中出现的非对性应问题(一)

..... 上海外国语大学 俞瑞良(164)

由特性体言看句中的体的表达形式“シタ”的使用	上海外国语大学	陆 洁(169)
「美」と「美しい」の比較	上海理工大学	李慧卿(175)
日本語の後置詞と中国語の介詞について	上海外国语大学贤达经济人文学院	李 波(180)
談話の定義	同济大学	刘志昱(185)
初級日本語学習者の発音に関する一考察	上海外国语大学	凌 蓉(189)
中国語との対照研究から見たとりたて助詞デモ	上海外国语大学	林 彬(194)
話し言葉におけるゼロ助詞の機能について	中南林业科技大学	任 霞(200)

日本文学

论平安时代和文中的「血の涙」与「紅の涙」	大连外国语学院	于永梅(204)
佐藤春夫が描いた中国	东京大学	河野龙也(209)
女給という立場	北京外国语大学	顾 蕾(214)
宮沢賢治の「風の又三郎」	华东理工大学	黄育红(219)
「自己本位」と他者	上海外国语大学	高 洁(224)
遠藤周作における「東」と「西」	洛阳外国语学院	史 军(228)
歌集『チョコレート革命』の世界と方法	上海财经大学	朱卫红(233)
大江健三郎小説の「自己言及癖」	上海外国语大学	徐 旻(238)
宫崎骏《红猪》的“红色”寓意	北京日本学研究中心	秦 刚(243)
村上春樹にとっての日本文学	上海外国语大学	张昕宇(248)
「中国美人像」から眺めた谷崎潤一郎と芥川龍之介の美意識	中南民族大学	张杭萍(253)

语言的魔力

- 河南大学 兰立亮(258)
- 宫廷文学と女性の詩人たち
..... 同济大学 李宇玲(264)
- 『枕草子』の「自讃談」章段と漢詩
..... 同济大学 李晓梅(269)
- 从《破碎婚戒》看清水紫琴的女性主义思想
..... 洛阳外国语学院 李先瑞(275)
- 从《新生》看岛崎藤村文学的告白性特征
..... 同济大学 刘晓芳(279)
- 歌語「あさけのすがた」考
..... 华东理工大学 梁海燕(285)

日本經濟文化

総合商社の現状と問題点に関する一考察

- 上海外国语大学 韩 宇(290)
- グローバル・マーケティング戦略について
..... 东京国际大学 金 琦(294)
- 战后日本金融自由化的演进
..... 上海外国语大学 瞿晓华(299)
- 日本国家学生ローンシステム：特徴と示唆
..... 华东师范大学高等教育研究所 徐国兴(303)
- 企業の社会的責任(CSR)について
..... 上海外国语大学 徐宝妹(307)
- 日本戦後の農地制度改革についての考察
..... 上海外国语大学 张 建(311)
- 中国における高齢者の医療保険制度について
..... 上海外国语大学 张建华(316)
- 金融危机冲击下的日本经济
..... 上海外国语大学 陈小芬(320)
- 日本の地方教育財政とその理念
..... 上海外国语大学 窦心浩(326)
- 日本少子化、人口减少的现状、成因及其对策课题
..... 上海大学 马利中(332)
- 日本就业形态历史流变
..... 北京语言大学 文 俊(338)
- 郵貯民営化について
..... 华东师范大学 杨 敬(343)

お盆における日本の祖霊崇拜について	上海外国语大学贤达经济人文学院	王 盈(347)
亚洲的安定、发展和媒体的作用	上海外国语大学	吴云珠(352)
池田大作的中国情结	上海外国语大学	顾伟坤(358)
日本节庆初论	同济大学	蔡敦达(363)
レジ袋有料化政策と消費者の環境保全意識への影響	富山商船高等専門学校	清水真(368)
院政期貴族日記に見る中国歴史上の暗君	上海外国语大学	谢 秦(373)
政府の若者就職支援対策及びその限界	上海外国语大学	焦毓芳(378)
「九・一八事変」後永井柳太郎の对外政策論	北京外国语大学	邵建国(383)
中巖圓月の儒学的政治思想についての一考察	北京外国语大学	孙容成(387)
佐藤政権と国連における中国代表権問題(1969-1971)	上海外国语大学	张绍铎(392)
中日テレビコマーシャルにおける家族イメージへの一考察	上海理工大学	张文碧(397)
企業における環境保護への取り組みと日本語教育の将来を考える	东北财经大学 菅阳子 バクー国立大学 松泽幸太郎	(401)
日本人は感性的、中国人は理知的		俞彭年(406)
日本人学生の北京五輪開会式の見方、感じ方	广岛大学	卢 涛(411)

日本語教育

关于外语语法教学的思考	上海海洋大学	王建民(418)
「日本式」近代女子教育の誕生	华东理工大学	何 玮(423)
日语敬语新规文件的趣旨	上海外国语大学	夏建新(427)
大学専攻日本語教育における文学の役割	华东师范大学	乔 颖(432)

- 中国人学習者の傾向からみる日本語学習の可能性
..... 武汉大学 小森千佳江(435)
- 论汉日翻译中的变通翻译技巧
..... 北京外国语大学 徐 琮(439)
- 台湾における日本語教授法について
..... 华东师范大学 徐敏氏(444)
- 《学生の総合的コミュニケーション能力育成》について
..... 北京外国语大学 张慧芬(448)
- 中国の日本語教育における文法用語の取り扱いについて
..... 东华大学 张厚泉(452)
- 毕业论文选题特点及分析
..... 北京外国语大学 赵晓柏(458)
- 会話分析授業において受講生はどう学んだか
..... 东北大学 名嶋义直(463)
- 過剰般化と負の言語転移による日本語の誤用
..... 上海外国语大学 伏 泉(468)
- 多媒体技术与日语课件的制作
..... 北京联合大学 刘希玲(474)

日本語のニュアンス —「いいこと」「わるいこと」—

京都教育大学 森山卓郎

1 はじめに

いわゆるニュアンスと言われるような付随的な意味は外国語教育にとって非常に重要である。とりわけ日本語には、価値、すなわち「いいこと」「わるいこと」に関する表現が様々に分化していて注意が必要である。例えば、

(1) 彼に先に帰られた。

(2) 彼が先に帰ってしまった。

のような迷惑受け身や、「テシマウ」は、それぞれ「彼が先に帰る」ということについて、よいことではないという発話者のとらえ方を表す。こうしたことはボイスやアスペクトなどに関連する文法カテゴリーに関する議論として位置づけられてきた。

副詞としても、

(3) 幸い、雨がやんだ。

(4) 残念なことに、雨がやんだ。

での「幸い」「残念なことに」のように、事態の評価に関する副詞も、価値に関するコメントもなされる。これもモーダルな文法カテゴリーに関する議論として従来取り上げられてきたところである。

2 語彙的意味の背景にある「価値」

しかし日本語においてこうした「価値」に関する表現はいわば背景的な語彙的な意味としても関わっている。例えば、「あいにく」「せっかく」などの副詞の用法の場合、「いいこと」「わるいこと」ということにつながる価値観がある。例えば、

(5) あいにく外は雨です。

という場合、「あいにく」には「悪い偶然が重なる」という意味であり、「あいにく」に共起する部分はふつうは「わるいこと」である。

この点、「せっかく」はさらに少し複雑で、「利用すべきいい機会がある」などといった意味によって価値観が表されている。用法としては、

(6) せっかくたくさんの人が参加してくれたのに、運営がうまくいかなかった。

のように「せっかく～」という部分は「いいこと」が位置しており、そして、それに「わるいこと」が対照される場合もあれば、また、

(7) せっかく上海に行くのだから、蘇州にも行きたい。

のように、順接で後続部分につながる場合もある。直接的に価値観を表すわけではな

いが、用法の背景に価値観が表れる副詞と言える。

「さっそく」はさらに価値観が背景化した副詞である。例えば、

(8) 楽しそうな企画だったのでさっそく行ってみました。

(9) それでは、さっそくはじめましょう。

のように、「さっそく」の基本的意味は言うまでもなく、「間をおかない」「すぐにとりかかる」ということである。しかし、この副詞の場合、「すぐにとりかかる」のは「いいこと」であるという価値意識が背後にあるように思われる。そのため、

(10) 傘を持たずにあるいていた。雨が降ってきたのでさっそくずぶぬれになった。

のような表現は、アイロニーとしての使い方でない限り、少し違和感がある。談話において本題に入る場合に「さっそくですが、」という表現がよく使われるが、自分の都合で急ぐことへの断りであって、急ごうとする急ぐこと自体が「わるいこと」として扱われているわけではない。

このように、「いいこと」「わるいこと」といった価値に関するニュアンスは様々な副詞のいわば背景的な意味にも関わっている。

3 接続形式と価値の偏向

さらに、こうした「いいこと」「わるいこと」といった価値のニュアンスは、接続形式の用法を考える上でも重要である。接続関係の後件について、価値の上で偏向(良いことが続くというニュアンス、あるいは悪いことが続くというニュアンス)がある。

まず、語彙的意味が関連するものとして、例えば、「～おかげで」「～せいで」のような接続形式は、

(11) 試合ではシュートを急いだせいで{負けた/*勝った}。

(12) 試合ではシュートを急いだおかげで{勝った/*負けた}。

のようになっており、その逆は不自然である。

さらに、こうした語彙的な意味とは無関係に価値を表すものもある。例えば、「～てはじめて」という接続形式は、それ自体に価値に関する意味はない。しかし、

(13) その企画が終わって初めて、私たちの計画は{成功する/*失敗する}。

のように後件に「いいこと」が後続するの普通である(後述するように用法にもよる)。基本的にここでの「いいこと」とは話し手の判断としての価値評価と言え、前件をある条件として、後件に「いいこと」が続くという関係が成立している。

この「いいこと」に関わるタイプのうち、「て」形に関連するものとして、「～だけあって」「～てこそ」「～てはじめて」のようなものがある。これらはいずれも「いいこと」が後件に来る。そのため、

(14) 彼が参加してこそ、成功する。

のようにいうことはあるが、

(15) *彼が参加してこそ、失敗する。

のようには言わない。

同様に、「わるいこと」が後件に続く場合に使われる。例えば、「ては」は、

(16) 彼が参加しては大変なことになる。

のように価値の偏向があり、

(17)*彼が参加してはすばらしいことになる。

のように言う和不自然である。ただし、「ては」には「彼はいつも事件をおこしては謝っている」のように繰り返しを表す用法など他の用法もあり、その場合には「わるいこと」が続くとは限らない。

このように、同じ形式でも用法によって価値の偏向が起きる場合とそうでない場合がある。また、その結びつきも語によって違っている。こうした原因については語用論と文法論との相互作用という観点からから考えていく必要があるが、紙幅の関係上、別稿で整理することにして、本稿では一例として「～てはじめて」を例にその用法を検討したいと思う。

4 「～てはじめて」

「て+はじめて」は文字通り「ある時点以降、初めての出来事」という時間関係を表す。その意味を反映して、時間的用法と呼ぶべき用法がある。例えば、

(18)「電車は、いや。」私は、結婚してはじめてそんな贅沢なわがまま言いました。(太宰治「皮膚と心」)

のように、に「いいこと」「わるいこと」というニュアンスはない。

しかし、「～てはじめて」という接続形式でお、前件が後件成立の条件になるような用法(「すれば」を含んだ言い換えができる用法)になると、「いいこと」が接続するという価値偏向が生ずる。例えば、

(19)彼が来てはじめて、私たちの事業は成功する。

などと言うことはできるが、

(20)*彼が来てはじめて、私たちの事業は失敗する。

と言うことはできない。この場合、特に前件には特定時点での事態発生は来ない。すなわち、「～してはじめて～」は、「～すれば、それではじめて～」に言い換えられるような意味になっている。用例を見ても、

(21)大きな改革は、目的達成への指導者の気概があってはじめて実を結ぶ。(朝日新聞 871027)

のように、後件「実を結ぶ」契機となる条件が「てはじめて」の前件という意味になっている。この例で言えば、「気概があれば、それではじめて～」という一種の条件関係に意味になっている。つまり、「前件が成立」することが後件成立の第一条件という意味を構成する場合、その成立の条件がいわば待ち望まれることとして取り上げられ、これが語用論的に「いいこと」という価値偏向につながると思われる。

5 中国語における価値のニュアンス

こうした表現における価値の偏向は中国語でも見られる。例えば、

(22)只有他来、才 {能 成功・?失敗}。

(23)只要他来、就 {好・?不好}。

のような構文の場合、基本的に後続部分は「いいこと」である。これらの文でも、ある

意味での条件を述べることになっている。すなわち、「いいこと」が成立するための条件を提示するような意味になることと、価値の偏向ということは語用論的につながると思われるのである。

もっとも、こうしたことにも注釈が必要である。同じ「只有」という形であっても、例えば、

(24) 只有疯了的人才会做出这种不计后果的事情。(苏童《灼热的天空》(注3))

のような場合は「いいこと」であるという価値のニュアンスは生じない。しかし、これは例外ではない。実は、この場合、接続表現はなく、「只有」のあとに名詞しか来ていない。名詞の場合、「有」という動詞がそのままの形で生きていることになるので、接続表現としての形式化の度合いが小さいといえ、ここで述べるような価値の偏向はないのである。

日本語での現象と同様、単なる「形式の意味」として単純化されるのではなく、接続形式としてどのような用法で使われるかということが価値のニュアンスに結びついていると考える必要がある。こうした関係については今後さらに対照研究をしていくことが必要であろう。

6 おわりに

以上、「よいこと」「わるいこと」といった価値意識が、これまで言われてきたような迷惑受け身や評価の副詞などの形式以外に、様々なところで日本語に関わっているということを述べた。日本語の学習においてはこうしたニュアンスをおさえておくことは重要である。

特に、副詞の意味分析をする場合も、その背景的な意味のあり方に注意をする必要があるのであった。副詞に限らず、価値のとらえ方という観点から意味を考えていくことには一定の意味があると思われる。接続表現についても同様である。後続する内容に「いいこと」「わるいこと」といった偏向が生まれるものがあり、その記述は興味深い課題と言える。ここでは「てはじめて」の例を挙げたが、後件に「いいこと」が後続するということは、その後件が成り立つための条件を限定するような意味になっているということと無関係ではない。わざわざどうすれば後件が成立するかを考えるのである以上、その後件は語用論的にそれに足る「いいこと」なのだと言えるだろうか。同じ形式であっても、意味や用法によってそうした価値の含意が違ってくるということにも注意が必要なのであった。

今後さらに価値ということが関わる現象を包括的に考察し、語用論と文法論の相互作用についての検討を深めていく必要がある。別稿に期したい。

付記: 本論は2009年6月13日の日本学国際研究会(上海外国語大学)での基調講演を元にしてしている。ただし、本稿では紙幅の都合もあり、取り上げる内容はその一部にとどめる。

注

- ①「てしまう」でも、「最後までたべてしまいなさい」のように量限定による終結性、命令形のような期待性のあるモーダルな意味、といった要因によって、「わるいこと」といったニュアンスは消えることがある。
- ②ほかの形式でもアイロニーとしての用法はここでは扱わない。
- ③他の例も作成していたが、この実例自体は疏蒲剣(上海外大大学院生)氏が集めて下さったものの一つである。

参考文献

- [1] 有田節子, 2007, 日本語条件文と時制節性, くろしお出版
- [2] 日本語記述文法研究会, 2008, 複文, くろしお出版
- [3] 沼田善子, 2009, 現代日本語とりたて詞の研究, ひつじ書房
- [4] 前田直子, 2008, 日本語の複文, くろしお出版

中国の日本語教育の文法体系の再構築 —動詞の活用を中心に—

天津外国语学院 修 剛

「つつある」の接続法については、動詞のマス形の語幹、つまりマス形の「マス」をとったあとの形に、「つつある」をつける。

「中級日本語文法と教え方のポイント」の「つつある」の接続方法の説明である。連用形という従来の学校文法の動詞活用形をさけ、新しい日本語教育文法の動詞活用の説明を応用したものである。元来、中国における日本語教育の文法体系は学校文法によるものであったが、ここ十年来、日本の日本語教育用文法の新しい体系を応用すべしとの主張もある。伝統を守るか、今風をいかすか、教育現場から戸惑いの声がよく聞こえる。中国の日本語教育においては、学習者の認知習慣と第二言語習得理論の立場から、日本語教育のための文法体系を再構築する必要が生まれてくる。

一 動詞活用形に関する議論

学校文法では、古典文法の動詞活用の名称を継承して、動詞を五段(四段)、上一段、下一段、サ変、カ変に分けて、その活用形として、未然形、連用形、連体形、終止形、假定形、命令形の六形をあげるいわゆる5種類、6活用形をあげている。

文 語	口 語
四段活用	
ナ行変格活用	
ラ行変格活用	
下一段活用	五段活用
下二段活用	下一段活用
上一段活用	
上二段活用	上一段活用
カ行変格活用	カ行変格活用
サ行変格活用	サ行変格活用

これは、陳信徳、王曰和、朱万清をはじめ、諸先賢によって、中国の日本語教育にも導入され、しかも、現代仮名遣いの施行に基づいて、「四段活用未然形＋推量助動詞う」を「五段活用推量形＋う」へと、5種類、7活用形として定着した。

文語	口語
未然形	未然形
連用形	連用形
終止形	終止形
連体形	連体形
已然形	仮定形
命令形	命令形
	推量形

そして各活用形の後続の言葉として、次のように挙げられている。

未然形	—ない せる・させる れる・られる
連用形	—ます・た・て たい・たがる
	音便系(い、ん、っ) + て た
終止形	—
連体形	—とき
仮定形	—ば
命令形	—
推量形	う・よう

ちなみに、中国の日本語教育に用いられる文法は学校文法を中心としたものだった。

一方、佐久間鼎の「現代日本語法の研究」、鈴木重幸の「日本語文法形態論」、寺村秀夫の「日本語のシンタクスと意味 II」から、最近の日本語教育文法論まで、この学校文法の動詞活用形に次のように批判の矛先を向けている。「学校文法が古典語文法の枠組みに縛られており、現代の日本語を正しく記述、説明する能力を持たないという点がしばしば指摘」されている。

中国でも80年代の後半から、日本の日本語教育と足並みを揃えるように、教科書編集に日本語教育用文法を使うようにと主張のこえがあり、実際も使用する出版社や学者がふえつつある。たとえば、発行部数1000万部と誇る「標準日本語」は基本的に日本語教育文法体系を使用している。

学校文法の動詞活用形への批判は次の点に集中している。

- ①用語の名前は不合理である。たとえば、連用形、未然形などは意味不明である。
- ②活用形のとらえ方が曖昧で、語幹か語形か不明である。たとえば、終止形は一形式ととらえられるが、未然形、仮定形など、形式と認定できない。むしろ、後続の「ない」や「ば」と一緒に、「ない形」、「ば」形としたほうがよい。

- ③古典文法の踏襲で、現代語に適していない。たとえば、古典文法において区別がつ